

岩手県工業技術研究推進会議 生産技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月29日(金)
----------------------------	-------------------------

(テーマ名) 木質バイオマス消融雪システムの開発 (中間評価)

委員	質問・意見	回答
A委員	チップボイラーと比較すると値段が安いなぜか？	燃料の乾燥工程が不要である等によって、全体構造が簡単であるためである。
	燃料(ペレット製造)を含めたトータルコストを含めて考えるとどうか	燃料の生産工場として、県内にペレットは2ヶ所、チップは70ヶ所ある。そのため、ペレットの方がボイラーの設置場所によっては輸送コストがかかるため、トータルコストがかかる可能性がある。
E委員	(コメント) 設置規模は一般的に、出力100kw以上でチップボイラー、100kw以下の領域でペレットボイラーが主に使用されており、本来は棲み分けがはっきりとしている。	
C委員	設置場所は1ヶ所か？	住田町「道の駅」の1ヶ所である。
	ランニングコストは他の手段に比べて高いのか？	ペレットは灯油より割高であるため、ランニングコストはかかる。しかし、固形燃料であるため蓄熱による効果が期待でき、低出力連続燃焼といった使用方法によってはコストが下がる可能性がある。
	夏場の利用はどうするのか？	現在は考えていない。しかし、冷房に使用することを将来は考えたい。
E委員	貯湯槽をもっているのか、直接方式か？	暖房及び融雪に使用するためには貯湯槽を保有することが必要十分条件と考えている。共同研究企業とその点について更に検討を進めていく予定である。
	住田町のペレットボイラーと比べて出力対容積はコンパクトになっているのか？	今回考えている構造が回転式のバーナー方式を採用しているため、住田のものよりはコンパクトである。